

雨水貯留浸透製品評価認定書

評価認定対象製品： 軽量人工土壌 ポストンファームⅡ

雨水貯留浸透製品評価認定実施要項(2005年9月30日施行)に基づき
審査した結果、上記製品を総合治水対策及び水循環再生等
に寄与する製品と認め、下記のとおり評価認定する。

2021年 4月 1日

公益社団法人雨水貯留浸透技術協会

会



佐藤直良



記

1. 評価認定結果

- (1) 雨水貯留浸透基盤材として空隙率30%有していると認められる。
- (2) 雨水貯留浸透基盤材として必要な透水性能を有していると認められる。
- (3) プラスチック製地下貯留浸透槽上部の軽量埋め戻し材及び人工地盤や屋上緑化での貯留基盤材として活用できると認められる。
- (4) 環境への負荷が少ないと認められる。

2. 評価認定有効期間

自 2021年 4月 1日 至 2026年 3月31日

3. 申請者

株式会社 インターファーム

住 所 埼玉県入間市鍵山2-12-41

製品分類	雨水貯留浸透基盤材	お問い合わせ先	TEL 04-2941-2435 FAX 04-2941-2436
製品名	ポストンファームⅡ	株式会社インターファーム 埼玉県入間市鍵山 2-12-41	
材質	ALC・剪定枝・野菜屑		

■製品概要

本製品は、建築現場で発生した ALC（軽量気泡コンクリート）パネル端材をふるい分け、中和処理した骨材と野菜屑や剪定枝より作製した完熟堆肥を配合して製造した人工土壌である。原材料は、100%リサイクル材で、軽量の植栽土壌として市場に提供している製品である（図 1）。

一方、雨水の流出抑制対策として設置する雨水貯留浸透施設は、プレキャストやプラスチック製の地下貯留槽と雨水浸透ますや浸透トレンチで使用する単粒度砕石 4 号が主流になっている。雨水貯留浸透施設は、オンサイトで面的に広く・浅く設置する分散型の工法が効果的であり、本製品は緑地や植栽（グリーンインフラ）の緑化基盤材の浸透化材料として広くその活用が可能である。また、屋上緑化やプラスチック製の貯留浸透槽の上部荷重の軽減を図るための埋戻し材としても最適である。



図 1 ポストンファームⅡの外観

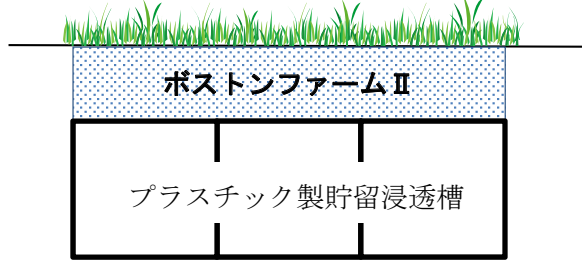
■製品の使用用途

○本製品の使用用途は、表 1、図 2 のとおり、雨水貯留浸透基盤材として使用する。

表 1 使用用途

使用用途	土地利用
雨水貯留浸透緑化基盤材	公園・緑地・植樹帯・花壇・歩道部
軽量埋戻し材	プラスチック製貯留浸透槽上部
屋上・人工地盤緑化材	建物屋根、屋上、人工地盤

プラスチック貯留浸透槽の軽量埋め戻材



雨水貯留浸透の緑化基盤材

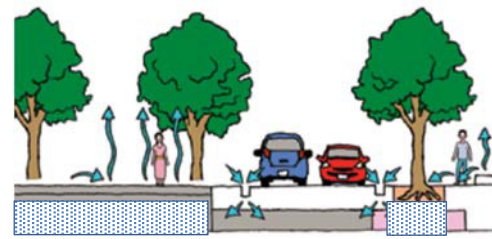


図2 ポストンファームIIの使用用途

■製品の使用材料

○本製品は、表2のとおり、環境に配慮した100%リサイクル材で製造している。

表2 使用材料

種類	使用材料	社内規格
骨材	ACL(軽量気泡コンクリート)パネルの端材を回収して破砕し、鉄筋など手作業で取り除き、クラッシャー機を通して粒径調整しベース骨材とする。	3-10mm
堆肥	剪定枝と野菜屑からの堆肥(堆肥化期間45日~60日)	20%配合

注)使用材料は、pH調整剤(中和剤)によりアルカリ性~中性に改善している。

■特長

1. 保水性、通水性に優れ、pHの調整剤によりは中和した人工土壌である。
2. 湿潤密度は、0.7~0.8 g/cm³ 軽量な人工土壌である。
3. 野菜屑、剪定枝をブレンドした完熟堆肥を20%配合した人工土壌である。
4. 原材料は、100%リサイクル材で製造した人工土壌(環境庁告示46号適合)である

■評価の範囲

1. 雨水貯留浸透施設の植栽基盤材の貯留性能(空隙率)
2. 雨水貯留浸透施設の植栽基盤材の透水性能(飽和透水係数)
3. 屋上緑化やプラスチック製の地下貯留浸透槽の上部荷重の軽減性能(湿潤密度)
4. 人工土壌の環境基準への適合性(pH等)

表3 雨水貯留浸透基盤材としての基本性能

項目	性能基準	土質試験結果
1. 空隙率(%)	30※	試験値 32~33%(単粒度再生4号同程度)
2. 飽和透水係数(m/s)	緑化基盤材 10 ⁻⁴ 以上	土壌の飽和透水試験結果 9.7×10 ⁻⁵
	軽量埋戻材 10 ⁻⁶ 以上	締固め時の土壌の飽和透水試験結果 4.8×10 ⁻⁶
3. CBR(%)	13.0	試験値 13.0% アスファルト舗装要綱等
4. 湿潤密度(g/cm ³)	0.7~0.8	土壌分析試験結果 0.74
5. 乾燥密度(g/cm ³)	0.6~0.7	土壌分析試験結果 0.64
6. 間隙率(%)	74.38	土壌分析試験結果 74.38%
7. pH(H ₂ O)	8.5以下	試験値 7.8 水質汚濁防止法(河川8.5以下)

※:緑化基盤材として使用時のみ適用、路盤材等して使用するために強く転圧した場合を除く

■評価の結果

1. 雨水貯留浸透施設の植栽基盤材の貯留性能（空隙率）

○本製品の締めめない状態で植栽基盤材として使用する場合は、表4に示すとおりである。空隙率は、骨材のバラツキ、安全率を考慮して、試験値より1割程度減じた30%を採用することで、単粒度砕石と同等の貯留性能を有していると認められる。

表4 ポストンファームⅡの空隙率

有効水分	間隙率 (%)	体積含水率 (%)	空隙率	採用値
pF1.8	74.38	42.0	32.38	30.0
pF2.0		41.3	33.08	

※空隙率=間隙率-体積含水率

2. 雨水貯留浸透施設の植栽基盤材の浸透効果に係る透水性能（飽和透水係数）

○本製品の飽和透水係数の試験結果を表5に示す。飽和透水係数は、 $9.7 \times 10^{-5} \text{m/s}$ であり、関東ローム層の最小値 ($1.0 \times 10^{-5} \text{m/s}$) を大きく上回ることから、雨水浸透効果を阻害しない透水性能を有していると認められる。ただし、締めめ時の飽和透水係数は、 10^{-6}m/s オーダーに低下するため、プラスチック製貯留浸透槽上部の軽量盛土材として使用する場合は留意すること。

3. 屋上緑化やプラスチック製の地下貯留浸透槽の上部荷重の軽減性能（湿潤密度）

○本製品の湿潤密度を表5に示す。湿潤密度は、平均で $0.74 / \text{cm}^3$ で水より軽く土の半分以下であり、屋上緑化やプラスチック貯留槽の上部荷重を軽減する土壌であることが認められる。

4. 人工土壌の環境基準への適合性（pH）

○本製品は、100%リサイクル材で製造され、表5に示す pH 値は 7.8 で水質汚濁防止法の河川の基準以下である。また、環境庁告示 46 号に適合している人工土壌である。

表5 ポストンファームⅡの土壌分析結果

試料名		ポストンファームⅡ		
C B R 試 験	供試体nNo	1	2	平均値
	湿潤密度 $\rho_t (\text{g/cm}^3)$	0.759	0.724	0.742
	乾燥密度 $\rho_d (\text{g/cm}^3)$	0.654	0.631	0.643
	含水比 $\omega (\%)$	16.0	14.7	15.4
	CBR値 (%)	12.4	13.5	13.0
密 度 試 験	土粒子の密度 $\rho_s (\text{g/cm}^3)$	2.508		
	間隙比 ϵ	2.835	2.975	2.905
	間隙率 (%)	73.92	74.84	74.38
	飽和度 $S_r (\%)$	14.2	12.4	13.3

※ 間隙比 $\epsilon = (\rho_s / \rho_d) - 1$

間隙率 = $\epsilon / (1 + \epsilon) \times 100$

飽和度 $S_r = \omega \times \rho_s / \epsilon \times P_w$ $P_w = 0.9982 (20.0^\circ\text{C})$

分 析 試 験	体積含水率 (%)	pF1.8	42.0
		pF2.0	41.3
		pF3.5	35.4
	飽和透水係数 (m/s)	9.7×10^{-5}	定水位法
	飽和透水係数 (m/s)	4.8×10^{-6}	締めめ時
pH(H ² O)	7.8	ガラス電極法	

【参考資料 1:ポストンファームⅡの製造工程】

骨材の製造工程

堆肥の製造工程

①建設現場で ALC 端材を分別



①剪定枝の回収



②ACL 端材の回収・運搬



②野菜屑の回収



③ALC 端材の破碎・分級(3-13mm)



③剪定枝と野菜屑の混合堆肥の製造



④骨材の完成



⑤骨材・堆肥の混練・袋詰め



※屋上緑化等に使用したポストンファームⅡについては、総役割が終了後、植物の根と一緒に回収して、堆肥化の工程を経て人工土壌に再生することができる。なお、不要な樹木類があれば、チップ化して堆肥原料としても活用できる。

⑥ポストンファームⅡの製造完成



【参考資料 2:ポストファームⅡの施工実績】



○「神奈川県横浜市緑区某大学校」
(レインガーデン)



○「浮間水再生センターの屋上公園」
(新河岸東公園)



【参考資料 3:ボストンファームⅡの土壌分析試験結果】

株式会社 インターファーム 殿

【件名】土壌分析
ーボストンファームⅡー

受付No.29691
報告書No.R021331
令和3年2月17日



パリア・サーヴェイ株式会社
計量証明事業登録 群馬県 環 第17号
本社 東京都北区田端1-25-19
電話 03(6386)4018(代)
研究所 群馬県藤岡市岡之郷字戸崎559-3
電話 0274(42)8129(代)

報告責任者 小畑 勝

分析担当者 山川 真樹

分析試験報告書

令和3年1月15日 ご依頼を受けました試料の分析試験結果を下記のとおり報告致します。

記

【試料】	土壌(人工土壌) 1点(依頼者持ち込み)
【分析試験結果及び方法】	別表のとおり
【備考】	記載事項待になし

次ページへ続く

分析試験結果

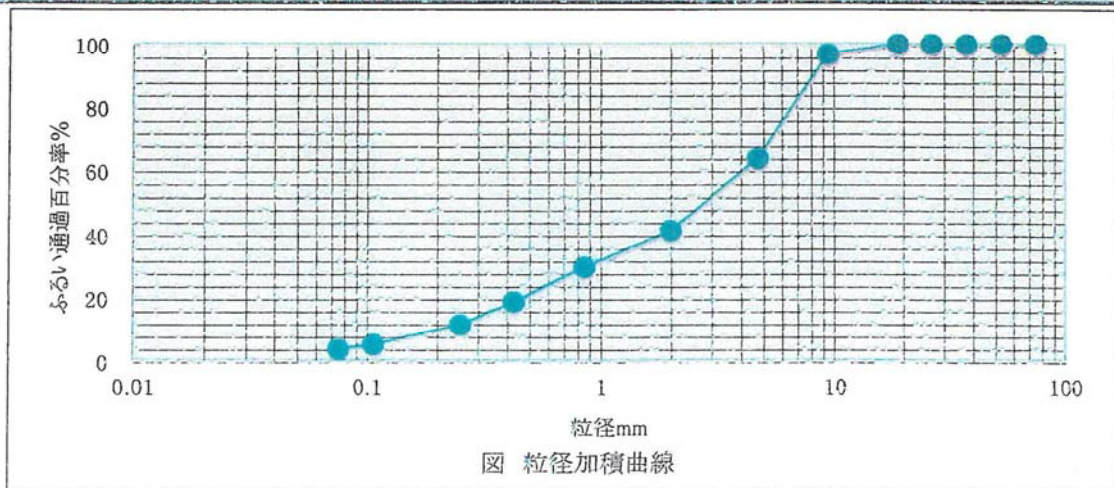
分析項目	単位	測定値	分析方法
pH(H ₂ O)		7.8	ガラス電極法「土壤環境分析法」
[液温]	[°C]	[21]	
有機炭素 C	g/kg*	27.6	チューリン法「土壤標準分析・測定法」
腐植	g/kg*	47.6	【特記事項】(3)参照
全窒素 N	g/kg*	2.10	硫酸分解法「土壤環境分析法」
C/N		13	【特記事項】(4)参照
陽イオン交換容量(CEC)	cmol _c /kg*	19.2	ショールヘルガー法「土壤環境分析法」
※飽和透水係数	m/s	9.7×10^{-5}	定水位法「土壤環境分析法」
※体積含水率	pF1.8	42.0	加圧板法—遠心法—乾燥法「土壤標準分析・測定法」/「土壤物理性測定法」
	pF2.0	41.3	
	pF3.5	35.4	
※有効水分 pF1.8-2.0		7	
※有効水分 pF2.0-3.5	L/m ³	59	【特記事項】(6)参照
※有効水分 pF1.8-3.5		66	
※湿潤比重 pF1.8	Mg/m ³	0.99	【特記事項】(7)参照
※湿潤比重 pF2.0	Mg/m ³	0.98	
※湿潤比重 pF3.5	Mg/m ³	0.92	
※仮比重	Mg/m ³ *	0.57	
粒度試験	%	別紙参照	土の粒度試験(ふるい分け試験)「JISA1204」

【特記事項】

- (1) 単位はSI単位を基本に表示。単位の*印は乾土あたり。
- (2) 電気伝導率(EC)は、容量比1:5で測定した。
- (3) 腐植は、有機炭素×1.724で算出。
- (4) C/Nは、有機炭素/全窒素で算出。
- (5) ※印は、JIS A 1210のモールドにpF1.8水分状態の試料を1層17.5cmで詰め、2.5kgランマーにより落下高さ10cm、回数10回の条件で突固め、その中心部から100mlコアサンプラーで採取した試料を用いて測定した。
- (6) 有効水分pF1.8-2.0=(体積含水率pF1.8-pF2.0)×10、有効水分pF2.0-3.5=(体積含水率pF2.0-pF3.5)×10、有効水分pF1.8-3.5=(体積含水率pF1.8-体積含水率pF3.5)×10。
- (7) 各比重は、物理性測定検体における測定値。

JIS A 1204	土の粒度試験(ふるい分け試験のみ)		
調査件名	土壌分析-ポストファームII-		
採取地		試験年月日	令和3年1月20日
採取者		試験者	パリオ・サーヴェイ株式会社
採取年月日			

試料番号及び試料名		ポストファームII					
乾燥試料重量		g 697.81					
ふるい目の寸法(mm)		ふるい残留試料質量	残留率	通過重量百分率	ふるい残留試料質量	残留率	通過重量百分率
		g	%	%	g	%	%
75	mm	0.00	0.0	100.0			
53	mm	0.00	0.0	100.0			
37.5	mm	0.00	0.0	100.0			
26.5	mm	0.00	0.0	100.0			
19.0	mm	0.00	0.0	100.0			
9.50	mm	22.98	3.3	96.7			
4.75	mm	229.74	32.9	63.8			
2.00	mm	159.37	22.8	40.9			
0.850	mm	78.44	11.2	29.7			
0.425	mm	77.66	11.1	18.6			
0.250	mm	50.50	7.2	11.3			
0.106	mm	43.90	6.3	5.0			
0.075	mm	10.54	1.5	3.5			



【特記事項】

土質試験証明書

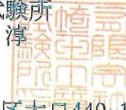
株式会社 インターファーム 殿

調査件名 ボストンファームⅡ

貴社からご依頼を受けた上記件名の土質試験を実施した結果

別紙の通り相違ないことを証明いたします。

有限会社 埼玉土質試験所
代表取締役 倉持 淳
〒339-0013
埼玉県さいたま市岩槻区大口440-1
TEL 048-799-0055
FAX 048-799-0066



JIS A 1211 JGS 0721	C B R 試験 (初期状態, 吸水膨張試験)
------------------------	-------------------------

調査件名 ポストンファームII 試験年月日 2021年 1月 18日

試料番号 (深さ) ポストンファームII 試験者 倉持 淳

試験方法	締固めた土	ランマー質量 kg	4.5	土質名称	
突固め方法	設計CBR	落下高さ cm	45	自然含水比 w_n %	
試料準備	準備方法	非乾燥法, 空気乾燥法	突固め回数 回/層	67	最適含水比 w_{opt} %
	空気乾燥前含水比 %		突固め層数 層	3	最大乾燥密度 ρ_{dmax} g/cm ³
	試料調整後含水比 w_0 %		モールド	内径 cm 15	荷重板質量 kg 5
			高さ ¹⁾ cm 12.50	モールド容量 V cm ³ 2209	

供試体 No.		1		2				
含水比	容器 No.	2367	2075	2184	858			
	m_w g	106.12	101.80	104.22	103.58			
	m_s g	99.42	94.97	97.86	97.39			
	m_c g	54.91	54.24	55.05	54.46			
	w_1 %	15.1	16.8	14.9	14.4			
平均値 w_1 %		16.0		14.7				
密度	(試料+モールド) 質量 m_z g	5605		5313				
	モールド質量 m_1 g	3929		3713				
	湿潤密度 ρ_w g/cm ³	0.759		0.724				
	乾燥密度 ρ_d g/cm ³	0.654		0.631				
吸水膨張試験	水浸時間 h	時刻	変位計の読み	膨張量 mm	変位計の読み	膨張量 mm	変位計の読み	膨張量 mm
	0		0	0.000	0	0.000		
	1		2	0.020	5	0.050		
	2		3	0.030	7	0.070		
	4		4	0.040	8	0.080		
	8		6	0.060	9	0.090		
	24		8	0.080	12	0.120		
	48		8	0.080	12	0.120		
	72		8	0.080	12	0.120		
	96		8	0.080	12	0.120		
試験	(試料+モールド) 質量 m_z g	6699		6415				
	膨張比 r_e %	0.064		0.096				
	湿潤密度 ρ'_w g/cm ³	1.253		1.222				
	乾燥密度 ρ'_d g/cm ³	0.655		0.630				
	平均含水比 w' %	91.3		94.0				

特記事項

- 1) スペーサーディスクの高さを差引く。
- 2) モールドの質量は有孔底板を含む。

$$r_e = \frac{\text{供試体の膨張量 (mm)}}{\text{供試体の最初の高さ (125mm)}} \times 100$$

$$\rho'_w = \frac{m_z - m_1}{V (1 + r_e / 100)}$$

$$\rho'_d = \frac{\rho_d}{1 + r_e / 100}$$

$$w' = \left(\frac{\rho'_w}{\rho'_d} - 1 \right) \times 100$$

JIS A 1211
JGS 0721

C B R 試 験 (室内試験結果)

調査件名 ポストンファームII

試験年月日 2021年 1月 22日

試料番号(深さ) ポストンファームII

試験者 倉持 淳

試験方法	締固めた土, 養生なし	ランマー質量	kg	4.5	土質名称	
突固め方法	設計CBR	落下高さ	cm	45	空気乾燥前含水比 %	
試料の準備方法	非乾燥法, 空気乾燥法	突固め回数	回/層	67	自然含水比 w_n %	
試験条件	水浸, 非水浸	突固め層数	層	3	最適含水比 w_{opt} %	
養生条件	日空气中	モールド	内径	cm	15	最大乾燥密度 ρ_{dmax} g/cm ³
	4日水浸		高さ ¹⁾	cm	12.50	

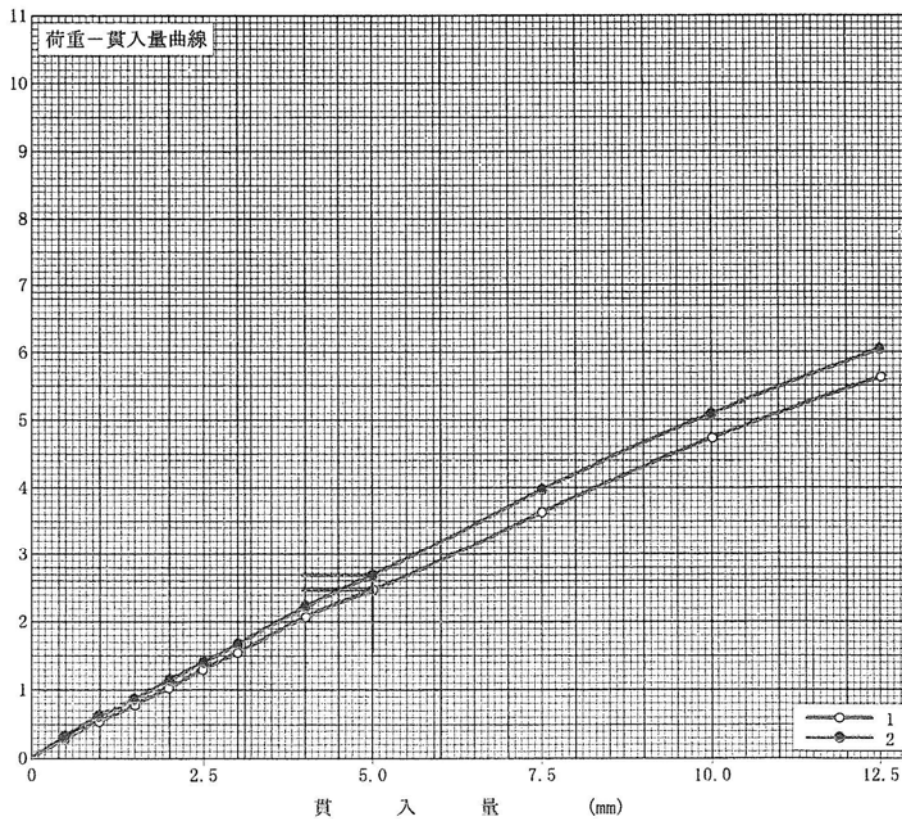
供試体 No.		1	2	
吸水膨張試験	前	含水比 w_1 %	16.0	14.7
		乾燥密度 ρ_d g/cm ³	0.654	0.631
	後	膨張比 r_s %	0.064	0.096
		平均含水比 w' %	91.3	94.0
貫入試験		乾燥密度 ρ'_d g/cm ³	0.655	0.630
		試験後の含水比 w_2 %	86.8	84.6
		貫入量2.5mmにおけるCBR%	9.7	10.4
		貫入量5.0mmにおけるCBR%	12.4	13.5
	C B R %	12.4	13.5	

平均 C B R %

13.0

特記事項

- 1) スペーサーディスクの高さを差引く。



[1MN/m² ≒ 10.2kgf/cm²]

[1kN ≒ 102kgf]

貫入量 mm	2.5	5.0
特荷		
貫入荷重		
標準貫入強度		
標準貫入強度 MN/m ²	6.9	10.3
標準貫入荷重 kN	13.4	19.9

JIS A 1202 JGS 0111	土 粒 子 の 密 度 試 験 (測定)
------------------------	----------------------

調査件名 ボストンファームII

試験年月日 2021年 1月 22日

試験者 倉持 淳

試料番号 (深さ)		ボストンファームII		
ピクノメーター No.		131	132	133
(試料+蒸留水+ピクノメーター)の質量 m_b g		160.687	155.406	148.813
m_b をはかったときの内容物の温度 T °C		23.5	23.5	23.5
T °Cにおける蒸留水の密度 $\rho_w(T)$ g/cm ³		0.99742	0.99742	0.99742
温度 T °Cの蒸留水を満たしたときの (蒸留水+ピクノメーター)質量 m_s g		157.783	152.223	145.812
試料の	容器 No.	131	132	133
	(炉乾燥試料+容器)質量g	62.831	48.250	38.871
炉乾燥質量	容器質量 g	58.020	42.958	33.886
	m_s g	4.811	5.292	4.985
土粒子の密度 ρ_s g/cm ³		2.516	2.503	2.506
平均値 ρ_s g/cm ³		2.508		

試料番号 (深さ)				
ピクノメーター No.				
(試料+蒸留水+ピクノメーター)の質量 m_b g				
m_b をはかったときの内容物の温度 T °C				
T °Cにおける蒸留水の密度 $\rho_w(T)$ g/cm ³				
温度 T °Cの蒸留水を満たしたときの (蒸留水+ピクノメーター)質量 m_s g				
試料の	容器 No.			
	(炉乾燥試料+容器)質量g			
炉乾燥質量	容器質量 g			
	m_s g			
土粒子の密度 ρ_s g/cm ³				
平均値 ρ_s g/cm ³				

試料番号 (深さ)				
ピクノメーター No.				
(試料+蒸留水+ピクノメーター)の質量 m_b g				
m_b をはかったときの内容物の温度 T °C				
T °Cにおける蒸留水の密度 $\rho_w(T)$ g/cm ³				
温度 T °Cの蒸留水を満たしたときの (蒸留水+ピクノメーター)質量 m_s g				
試料の	容器 No.			
	(炉乾燥試料+容器)質量g			
炉乾燥質量	容器質量 g			
	m_s g			
土粒子の密度 ρ_s g/cm ³				
平均値 ρ_s g/cm ³				

特記事項

1) ピクノメーターの検定結果から求める。

$$\rho_s = \frac{m_s}{m_b + (m_s - m_b)} \times \rho_w(T)$$

土質試験証明書

株式会社 インターファーム 殿

調査件名

ボストンファームⅡ

貴社からご依頼を受けた上記件名の土質試験を実施した結果
別紙の通り相違ないことを証明いたします。

有限会社 埼玉土質試験所
代表取締役 倉持 淳

〒339-0013
埼玉県さいたま市岩槻区大口440-1

TEL 048-799-0055
FAX 048-799-0066



JIS A 1218 JGS 0311	土の透水試験 (定水位, 変水位)
------------------------	-------------------

調査件名 ポストンファームII 試験年月日 2021年 3月 9日

試料番号 (深さ) ポストンファームII 試験者 倉持 淳

試料	土質名称		容器 No.	
	最大粒径 mm		内径 D_s cm	10.00
	土粒子の密度 ρ_s g/cm ³	2.508	長さ L_s cm	12.73
スタンドパイプ ¹⁾	内径 cm	2.00	質量 m_s ²⁾ g	2027
	断面積 a cm ²	3.14	試験用水	水道水

供試体作製, 飽和方法 供試体作製は、2.5k g ランマーで25回、3層で締め固めた。
吸水脱気法

供試体寸法	供試体 No.		供試体の状態	試験前	試験後 ³⁾	
	直径 D cm	10.00		(供試体+透水円筒) 質量 m_1 g	3046	3389
	断面積 A cm ²	78.54		供試体質量 $m = m_1 - m_s$ g	1019	1362
	長さ L cm	12.73		湿潤密度 $\rho_t = m/V$ g/cm ³	1.019	1.362
	体積 V cm ³	999.8		乾燥密度 $\rho_d = \rho_t / (1+w/100)$ g/cm ³	0.587	0.626
				間隙比 $e = (\rho_s / \rho_d) - 1$	3.273	3.006
			飽和度 $S_r = w\rho_s / (e\rho_w)$ %	56.3	98.2	

含水比	試験前				試験後 ³⁾	
	容器 No.	2339	2038	2469	982	2346
	m_a g	120.04	119.89	123.24	131.92	122.75
	m_b g	91.78	92.59	94.15	89.33	86.10
	m_c g	53.77	55.22	54.31	53.95	54.49
w, w_r %	74.35	73.05	73.02	120.38	115.94	116.90
平均値 %		73.47			117.74	

測定 No.	1	2	3	4	5
測定開始時刻 t_1	00:00:00	00:00:00	00:00:00		
測定終了時刻 t_2	00:08:02	00:09:10	00:10:19		
測定時間 $t_2 - t_1$ s	482	550	619		
定水位					
水位差 h cm					
透水量 Q cm ³					
T °Cに対する透水係数 k_r ⁴⁾ m/s					
変水位					
時刻 t_1 における水位差 h_1 cm	135.0	136.0	130.0		
時刻 t_2 における水位差 h_2 cm	86.0	76.0	67.0		
T °Cに対する透水係数 k_r ⁶⁾ m/s	4.76E-6	5.39E-6	5.45E-6		
測定時の水温 T °C	17.5	17.5	17.5		
温度補正係数 η_T / η_{15}	0.938	0.938	0.938		
15°Cに対する透水係数 k_{15} m/s	4.46E-6	5.06E-6	5.11E-6		
代表値 k_{15} m/s	4.88E-6				

特記事項

- 1) 変水位試験の場合
- 2) 透水円筒, 底板, シール材などを含む。
- 3) 保水性の小さい試料は測定を省いてよい。
- 4) $k_r = \frac{L}{h} \cdot \frac{Q}{A(t_2 - t_1)} \times \frac{1}{100}$
- 5) $k_r = 2.303 \frac{aL}{A(t_2 - t_1)} \cdot \log \frac{h_1}{h_2} \times \frac{1}{100}$
 $k_{15} = k_r \cdot \eta_T / \eta_{15}$

計 量 証 明 書



株式会社 インターファーム 殿

環境計量証明事業 群馬県第39号
環境省指定調査機関 環2004-1-19

昭和環境分析センター 株式会社

群馬県館林市堀工町1884番地の28
電話 0276(75)5500 FAX 0276(73)3499

ご依頼の試料について分析した結果下記
のとおりであったことを証明します。

試 料 名	ボストンファームⅡ
調 査 名	
採 取 場 所	埼玉県入間市 比留間運送入間工場
採 取 年 月 日	平成24年12月11日
採 取 業 者 名	株式会社 インターファーム
採 取 区 分	持込試料

分 析 項 目	単 位	分 析 結 果	定量下限	基 準	分 析 方 法
カドミウム	mg/l	< 0.005	0.005	0.01	JIS K 0102 55.2
全シアン	mg/l	不検出	0.1	不検出	JIS K 0102 38.3
有機燐	mg/l	不検出	0.1	不検出	昭和49年環告64付表1
鉛	mg/l	< 0.005	0.005	0.01	JIS K 0102 54.2
六価クロム	mg/l	< 0.005	0.005	0.05	JIS K 0102 65.2.3
砒素	mg/l	< 0.005	0.005	0.01	JIS K 0102 61.2
総水銀	mg/l	< 0.0005	0.0005	0.0005	昭和46年環告59付表1
アルキル水銀	mg/l	不検出	0.0005	不検出	昭和46年環告59付表2
PCB	mg/l	不検出	0.0005	不検出	昭和46年環告59付表3
ジクロロメタン	mg/l	< 0.002	0.002	0.02	JIS K 0125 5.2
四塩化炭素	mg/l	< 0.0002	0.0002	0.002	JIS K 0125 5.2
1,2-ジクロロエタン	mg/l	< 0.0004	0.0004	0.004	JIS K 0125 5.2
1,1-ジクロロエチレン	mg/l	< 0.002	0.002	0.02	JIS K 0125 5.2
シス-1,2-ジクロロエチレン	mg/l	< 0.004	0.004	0.04	JIS K 0125 5.2
1,1,1-トリクロロエタン	mg/l	< 0.0005	0.0005	1	JIS K 0125 5.2
1,1,2-トリクロロエタン	mg/l	< 0.0006	0.0006	0.006	JIS K 0125 5.2
トリクロロエチレン	mg/l	< 0.002	0.002	0.03	JIS K 0125 5.2
テトラクロロエチレン	mg/l	< 0.0005	0.0005	0.01	JIS K 0125 5.2
1,3-ジクロロプロペン	mg/l	< 0.0002	0.0002	0.002	JIS K 0125 5.2
チウラム	mg/l	< 0.0006	0.0006	0.006	昭和46年環告59付表4
シマジン	mg/l	< 0.0003	0.0003	0.003	昭和46年環告59付表5
チオベンカルブ	mg/l	< 0.002	0.002	0.02	昭和46年環告59付表5
ベンゼン	mg/l	< 0.001	0.001	0.01	JIS K 0125 5.2
セレン	mg/l	< 0.005	0.005	0.01	JIS K 0102 67.2
ふっ素	mg/l	0.1	0.1	0.8	昭和46年環告59付表6
ほう素	mg/l	< 0.1	0.1	1	JIS K 0102 47.3

備 考

- ・平成3年環境庁告示第46号による溶出試験
- ・< 印は定量下限未満を示します。

検体区分:A26825

環 境 計 量 士	市 川 秀 和	分 析 担 当	小 林	林	宮 田
-----------	---------	---------	-----	---	-----